

青森県水産増殖センター

センターだより



ふ化後40日令の仔魚（全長約10mm）

平成8年度マコガレイの種苗生産に着手

平成8年度からマコガレイの本格的種苗生産がスタートすることになりました。

マコガレイは、北海道以南から九州地方沿岸域にいたるまで広く分布するとともに、カレイ類のなかでは、比較的沿岸域に生活圏をもつ地域性の強い魚種です。また、マコガレイは本州以南では刺身用高

級魚として珍重され、ヒラメ並みかそれを上回る価格で取引されていると聞いており、本県においても大いに期待されるところです。

写真は、今年2月に三沢沖で採捕された親魚から採卵し、得られた仔魚で、すでに飼育試験を開始しております。（魚類部 技師 榊 昌文）

目次

新規事業の紹介

ホタテガイ養殖の生産向上のために

『高品質ホタテガイの安定生産技術開発研究』 ……2

平成8年度事業計画と分担

漁場部 ……2

ほたて貝部 ……3

貝類部 ……3

魚類部 ……4

海藻部 ……4

新年度加入メンバーより一言 ……5

平成8年度年間主要行事予定 ……6

平成8年度水産増殖センター職員配置 ……6

新規事業の紹介



ホタテガイ養殖の生産性向上のために

『高品質ホタテガイの安定生産技術開発研究』

総括主任研究員 小坂善信

近年、ホタテガイの国内生産は急激に増大し、さらには中国産ホタテガイの輸入拡大により、価格の低迷が続き、昨年の陸奥湾でのホタテガイの生産額が14年ぶりに100億円を割ってしまいました。かつては1kg当り200～300円で取り引きされていたものが、今では大きなホタテガイでもkg当り100円前後でしか取り引きされていません。1枚当りにすると10円しかならず、ホタテガイ1枚がたばこ1本分の値段と変わらないことになります。

また、陸奥湾でのホタテガイの生産は7～8万トンと安定していますが、頻発するへい死または地まき貝の軟体部の歩止りの低下など、生産者にとっては苦慮する面が多いのが実情です。このため漁業者は収入を減らさないように価格の低下とへい死することを念頭におき、より多くの種苗を確保してさらに手間と経費かけて生産量を増やして、収入の減少を質よりも量でカバーしようとしています。

このような現状から抜け出し、これからは高値で売れる貝作りは勿論、へい死が少なく、身入りの良い貝を生産して行かなければなりません。農

業においては米は勿論のこと、品種が重要視されています。種子つまり品種を制した者が世界を制すると言われています。水産においては一部の種類（コイ、ノリなど）でしかまだ品種というものが重要視されていませんが、今後水産においても品種というものが重要なカギとなってくるものと考えられます。

これまで当センターでは優良なホタテガイを作るために国内外のホタテガイの特性について調べてきましたが、陸奥湾のホタテガイでも遺伝的にへい死しにくく、身入りの良いものがあることが解ってきています。

これまでの研究成果を基にして、今年度から『高品質ホタテガイの安定生産技術開発研究』で、高品質の品種を作る研究が始まりました。この事業では、成長、身入りが良く、へい死しにくいホタテガイ品種をつくる技術を開発することだけではなく、この優良な品種となる母貝である地まきホタテガイを確保するために、ヒトデの効率的な駆除方法または漁場管理方法も検討し、陸奥湾全体のホタテガイを優良な品種にしていこうとしています。

平成8年度事業計画と分担

漁場部



部長 仲村俊毅

このたびの人事異動により漁業振興課へ転出された松本前部長に代わり、水産課から着任いたしました。また、永峰研究管理員が水産物加工研究所へ転出し、松原主任研究員が水産試験場から転入しました。よろしくお願いします。

当部の仕事は従来からの自動観測ブイと今年3月に竣工し、大幅に機能がアップした試験船新「なつどまり」（濱田船長）による陸奥湾を中心とした水温、塩分等の海洋環境の調査研究、貝毒の監視及び貝毒プランクトン発生状況等の調査研究の他、4年に一度、陸奥湾の漁場環境を総合的に

チェックするために実施してきた「陸奥湾漁場保全対策基礎調査」が終了しましたが、従来、普及所が中心となり実施してきた「漁業公害調査指導事業」の一部が模様替えとなり、「漁場保全対策推進事業」として当所で受け持つこととなりました。

具体的な仕事と担当は次のとおりです。

- 1 浅海定線調査
(今井主任研究員)
- 2 漁場保全対策推進事業
(今井主任研究員)
- 3 海況予報高度化技術確立調査
(松原主任研究員)
- 4 貝毒被害防止対策事業
(三津谷総括主任研究員)
- 5 貝毒成分・有毒プランクトン等モニタリング事業
(三津谷総括主任研究員)

ほたて貝部



部長 早川 豊

ほたて貝部では、4月の定期人事異動で工藤主任研究員が総括主任研究員に昇任しました。

昨年度と同じメンバーでスタートしましたが、一同、フレッシュな気持ちで張り切っています。

本年の主な事業と分担は以下の通りで、ホタテガイ（但し、貝毒を除く）を対象に調査研究を進めてまいります。

1. ホタテガイ成育環境調査

餌料環境とホタテガイ成育状況との関連について調査・監視します。

（田村技師ほか）

2. ホタテガイ増殖試験

天然採苗予報調査、垂下養殖実態調査（春、秋）地まき実態調査（秋）、実験漁場での実証試験等基本的な調査・試験を行います。

（田村技師ほか）

3. 高品質ホタテガイの安定生産技術開発研究

（新規事業：21青森推進事業）

①高品質ホタテガイ生産のための育種技術の開発・実証試験、②害敵生物ヒトデの生態調査による天然採苗及び漁場管理法を検討します。

（①小坂総括主任研究員ほか）

（②工藤総括主任研究員ほか）

4. ホタテガイ種苗の種苗性評価及び改善に関する研究（新規事業）

現状種苗の実態を調査すると共に、科学的な評価を行い、良質な種苗確保に必要な簡易な精度の高い評価法を検討します。

（工藤総括主任研究員ほか）

5. ホタテガイ種苗生産試験

母貝の成熟状況、産卵盛期の把握、母貝数量調査等を行います。

（田村技師ほか）

6. ホタテガイ保護水面管理事業

保護水面の維持・管理、環境調査を行います。

（田村技師ほか）

また、5月中旬頃から平成8年度春季ホタテガイ垂下養殖実態調査が始まります。

我々メンバー、皆様方との交流をより一層深め、ホタテガイの漁業の安定・発展に努力しますので、益々のご協力をお願い申し上げます。

貝類部



部長 小倉 大二郎

貝類部では、この度の定期人事異動により高山技師が水産修練所へ転出し、伊藤総括主任研究員と清藤技師の3名で仕事を進めていくことになりましたので、よろしくお願いいたします。

本年の主な事業と分担は次ぎのとおりです。

1. 特定研究開発促進事業（磯根資源の初期生態の解明に関する研究／アワビ）

アワビ資源の回復・増大を図るため、天然下での餌料環境、食害生物や競合生物による影響等を調査研究し、アワビ幼稚仔の減耗要因を解明します。

（伊藤総括主任研究員ほか）

2. 放流技術開発事業（アワビ）

アワビ放流漁場について、良・不良漁場の生物構造の比較から成長、生残に影響する要因を明らかにし、集約的な放流技術を開発します。

（伊藤総括主任研究員ほか）

3. 地域特産種量産放流技術開発事業

（ホッキガイ）

本県太平洋海域の重要資源であるホッキガイの安定生産を図るため、種苗の大量生産技術の開発と、資源添加技術の開発を行います。

（清藤技師ほか）

4. 重要貝類増殖試験（サザエ）

日本海域の重要資源であるサザエについて、早期採苗を中心とする種苗生産、中間育成、放流等の試験を行い、増殖技術の確立を図ります。

（伊藤総括主任研究員ほか）

5. ナマコ増殖管理技術開発試験

ナマコの栽培漁業化を確立するため、種苗量産の効率化を図るとともに、放流種苗の管理技術を開発します。

（清藤技師・小倉部長ほか）

6. 沿岸特定資源調査（ナマコ）

むつ市ならびに横浜地区のナマコを対象に、資源管理計画に必要な資料を得るため、市場調査、資源調査、浮遊幼生調査等を実施します。

（清藤技師ほか）

魚 類 部



部長 横 山 勝 幸

魚類部では、涌坪主任研究員が水産課へ転出し、代わって兜森主任研究員が漁業振興課から、榑技師が内水面水産試験場から転入しましたので、よろしくお願いいたします。本年度の主な事業と担当者は次のとおりです。

1. 沿岸性異体類栽培促進技術開発試験

本県沿岸漁業のカレイ類の中では、マガレイと並んで重要な資源であるマコガレイについて、種苗生産技術や資源添加技術（種苗放流など）の開発を行います。今年度からの新規事業ですが、表紙で紹介したように今年2月から飼育試験が始まっています。

（榑技師ほか）

2. ムシガレイ種苗量産技術開発試験

本県日本海側及び津軽海峡域の重要資源であるムシガレイ（ミズクサガレイ）の種苗生産技術の開発に取り組んでいます。

（中西主任研究員ほか）

3. ヒラメ育成用飼料開発試験

養殖用飼料（ドライペレット）の蛋白源としての魚粉を、大豆粕やトウモロコシなどの植物性蛋白と家畜の骨肉粉などで代替する試験を行っています。

（横山部長ほか）

4. 特定海域新魚種（マダラ）定着促進技術

開発試験

昨年は、脇野沢村・佐井村両漁協の協力を得て初めて10万尾以上のマダラ種苗を放流することができ、放流魚の再捕も増えてきています。

今年度は放流種苗の追跡調査も行う予定ですので、引き続きご協力くださるようお願いいたします。

（中西主任研究員、兜森主任研究員ほか）

5. クロソイ放流技術開発事業

ポスト・ヒラメとしての期待の大きいクロソイの栽培漁業化を目指して、水産試験場と共同で取り組んでいます。昨年に引き続き、脇野沢・大戸瀬地先での中間育成及び標識放流試験等を実施します。

（兜森主任研究員ほか）

6. 日本海・北日本養殖業普及対策事業

昨年に引き続き、日本海（大戸瀬地先）でのクロソイ養殖試験を行います。

（兜森主任研究員ほか）

7. 生物餌料の培養技術に関する研究

今年度からの新規事業として、5ヶ年計画でスタートします。魚類の種苗生産に不可欠なワムシ（L型）の大量・安定生産技術の開発を目指します。

（榑技師ほか）

8. 電源立地地域温排水対策事業（大間地点）

昨年に引き続き、クロソイ（奥戸）とホシガレイ（大間）の養殖試験を行います。

（中西主任研究員ほか）

9. 沿岸特定資源調査（蟹田地区）

トゲクリガニの資源管理計画作成のための調査を行います。

（横山部長ほか）

海 草 部



部長 須 川 人 志

4月の人事異動でエゴノリ担当の山口研究管理員が水産修練所教務課長に、またニチリンヒトデ等の研究で多くの業績がある桐原主任研究員が漁業振興課主査に転出し、代わりに水産事務所から蝦名技師と漁政課から吉田技師が転入しました。

海草部のメンバーはホンダワラ類の研究を続けている藤川技師を加えた4名で本年度の仕事を進めますので、よろしくお願いいたします。

海草部の主な事業と担当は次のとおりです。

1. 優良海藻種苗開発試験

（藤川技師ほか）

2. 日本海沿岸藻場造成技術開発事業

（藤川技師ほか）

3. コンブ発生量の変動要因解明研究

（蝦名技師ほか）

4. エゴノリ養殖管理技術開発試験

（吉田技師ほか）

5. 磯焼け対策新技术調査事業

（蝦名技師ほか）

6. 電源立地地域温排水対策事業調査

（大間：蝦名技師ほか）

（白糠：吉田技師ほか）

7. 沿岸漁場整備開発事業効果調査

（吉田技師ほか）

新年度加入メンバーより一言



漁場部長

仲村 俊 毅

7年ぶりの試験研究機関、11年ぶりの増殖センター、16年ぶりの漁場部勤務となります。最新の調査分析機器が導入され、特に、コンピューターの発達はめざましいものがあり目を白黒させています。やりたい事は山ほどあるのに、何から手をつけたらよいのかわからない、というのが今の状態。しばらくリハビリに精をだします。



総括主査

松山 英 春

(総務室)

ずっと土木関係の公所を歩いてきたので、センターのような試験研究機関は初めてです。知らない事がほとんどで、とまどうことが多いのですが、逆に新採用時代に帰ったような不思議な懐かしさを覚えています。経験のなさを、やる気でカバーするつもりです。よろしく！



主任研究員

松原 久

(漁場部)

私はこの3月まで水産試験場で日本海と太平洋の海洋環境に関する仕事をしていましたが、4月から3年ぶりに水産増殖センターに戻って再び陸奥湾の海洋環境の仕事に携わる事になりました。外海の状況も視野に入れながら、陸奥湾の海洋を研究したいと思います。趣味は釣りですが、仕事を趣味に活用できず、獲物が食卓にあがることは希です。釣果を得るためにも余念なく研究したいと思います。このことに関して情報をもっている方は、どうか私にこっそり教えてください。



主任研究員

兜 森 良 則

(魚類部)

仕事着が変わりましたのが、頑張りますので宜しくお願いいたします。



技 師

吉田 雅 範

(海草部)

このたび、念願の水産増殖センターに配属させていただくことになりました。今のところまわりが見えず非常に緊張しておりますが、頑張りますので宜しくお願いいたします。



技 師

蝦名 浩

(海草部)

早く馴れて話が見えるように頑張ります。



技 師

榊 昌 文

(魚類部)

新しい施設と新たな仕事、新鮮な気持ちで頑張ります。



機関長

長 津 司

4月1日付けで水産増殖センターに転勤になりました。5年ぶりの水産増殖センターということで、建物も新しくなり、試験船「なつどまり」も新造船ということで心機一転頑張りますので宜しくお願いします。

《平成8年度年間主要行事予定》

- 4月 ○ホタテガイ採苗情報会議
○ホタテガイ母貝成熟状況調査
○ホッキガイ資源調査（三沢）
○サザエ種苗生産試験開始
- 5月 ○ホタテガイ採苗情報会議
○ホタテガイ春季垂下養殖実態調査
○ホタテガイ母貝成熟状況調査
○ナマコ資源・生態調査（むつ、横浜3月
まで毎月）
○アワビ関連フィールド調査（易国間、佐
井村、平舘地区3月まで毎月）
○マダラ中間育成試験開始（佐井）
○クロソイ種苗生産試験開始
○ムシガレイ種苗生産試験開始
- 6月 ○ホタテガイ付着稚貝情報会議
○ホタテガイ養殖管理情報会議
○サザエ中間育成試験開始（大戸瀬）
○マダラ標識放流（脇野沢）
- 7月 ○ホタテガイ養殖管理情報会議（青空教室）
○陸奥湾内底生生物調査（公海域の貝類、
その他生物の分布調査）
○ホッキガイ中間育成
○エゴノリ養殖検討会

- 8月 ○ホタテガイ養殖管理情報会議
- 9月 ○ホタテガイ養殖管理情報会議
○アカガイラーバ調査（川内）
○ヒラメ育成用餌料開発試験開始
○クロソイ標識放流（大戸瀬、脇野沢）
○エゴノリ人工採苗研修（11月まで）
- 10月 ○ホタテガイ秋季垂下養殖実態調査
○ホタテガイ地まき増殖実態調査
○サザエ放流追跡調査（大戸瀬）
○ホッキガイ資源調査（三沢）
○マコガレイ標識放流（三沢）
- 11月 ○ホタテガイ地まき増殖実態調査
○ホッキガイ放流追跡調査（三沢）
- 12月 ○ホタテガイ母貝成熟状況調査開始（12～
5月）
○マダラ、ホシガレイの種苗生産試験開始
- 2月 ○コンブ変動要因研究報告会
○マコガレイの種苗生産試験開始
- 3月 ○ホタテガイ採苗情報会議（3～5月）
○ナマコ放流追跡調査
○日本海藻場造成調査報告会

平成8年度水産増殖センター職員配置

